

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

大津芸能倶楽部プロジェクト

所在地	滋賀県大津市	設立年	令和3年
運営主体	大津芸能倶楽部プロジェクト		
事業目標	古くから芸能にゆかりのある滋賀県大津市の歴史や文化を、芸能の鑑賞・実践を通じて主体的に学ぶ機会を提供することを目的に「大津芸能倶楽部」を創設した。そして、持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うため、下記の4つの課題の解決を目指した。		
	課題区分	課題詳細	目標区分
	課題① 子供たちの潜在的ニーズの掘り起こし	大津に住む子どもたちは、文化祭や地元のお祭り等で、芸術文化に触れる機会はあるが、 大都市(東京、大阪)の子供達に比べて、“プロ”の表現や作品に触れる機会が非常に少ない。 鑑賞から実演までの動線をどう作っていくか、芸能に関する興味関心を維持していく工夫が必要である。	目標①-1 生の舞台の鑑賞機会の提供
	課題② 保護者への負担軽減	共働きの家が多くなってきているため、費用面や拘束時間等、保護者の方の理解を得やすいよう、家庭に負担の少ない仕組みを作る必要がある。	目標①-2 稽古の機会の提供
	課題③ 学校側の負担軽減	大津市内の小中学校の先生方に聞いたところ、プロの生の舞台を鑑賞させたいという気持ちは強いが、コロナのため不安もあるという。 教育現場への負担を最小限に留めるため、小中学校と密なやりとりが必要である。	目標②-1 参加費の負担軽減
課題④ 行政や自治会等との地域連携	地域の方に子供たちの活動に触れる機会を提供するとともに、今後の活動の理解を得なければならない。 行政が所管する地域の公民館を活用したり、自治会や地域の団体と連携するなど、地域を巻き込む工夫が必要である。	目標②-2 拘束時間の負担軽減	
課題③ 学校側の負担軽減		目標③ 学校側との密な連携を通じた教員の負担軽減	大津市内で3回以上、計300名以上の子供たちに、大津にゆかりのある芸能[落語、三味線音楽(常磐津)、芝居(コント)]のプロの公演を生で鑑賞、体験できる機会を作る。 落語3名、三味線音楽(常磐津)6名2組、芝居(コント)6名3組 計15名程度を集める。 発表会に向けた個別指導を月1回以上行い、プロによる5時間程度の稽古の機会を作る。 スポーツ安全保険年間800円+衣装代や観劇費用、交通費の実費負担等、必要最低限の出費に抑える。 子供たちが徒歩で通える稽古場の確保や遠隔稽古等、子供たちで完結する効率的な稽古を実施し、保護者の負担を減らす。 コロナの感染状況に応じ、密に連携をとりながら実施方法を検討し、学校現場の負担を軽減する。
課題④ 行政や自治会等との地域連携		目標④ 行政や地域を巻き込んだ宣伝活動の実施	発表会は、保護者の方や同級生だけでなく、地域の方々も観客として参加してもらえるように働きかける。 その際、行政、自治会や地域の団体と連携し、宣伝や集客を行うことで、地域での認知度を高める。
きっかけ	古くから芸能にゆかりのある滋賀県大津市の歴史や文化を、芸能の鑑賞・実践を通じて主体的に学ぶ機会を提供したいという想いで発足。 「プロと出会い、自分でやってみる」をテーマに、プロの表現に触れ、表現方法を学び、自ら表現する機会を子供たちに提供している。 この活動を通じて、子供たちの自立心・責任感の芽生え、問題解決能力の習得、自己肯定感の向上に寄与すると考えている。		
団体・組織等の連携			
活動場所	大津市内の小中学校:出張授業や鑑賞会、ワークショップを実施 大津百町館(市民有志が運営する築150年以上の古民家):発表会に向けた稽古を実施 スカイプラザ浜大津(大津市が所有する文化施設):発表会を実施		

	活動区分	活動内容	活動詳細	
活動概要	活動① 鑑賞の機会の提供と 参加者募集	時期:5月 大津市内で鑑賞会兼ワークショップ を実施し、生の舞台の鑑賞機会を提 供	中学生に向けたイベント@大津市立打出中学校 中学1年生9クラスに対して、落語、三味線音楽(常磐津)、芝居(コント)の公演 を体育館にて行なった。 最初に、大津の歴史や芸能について学ぶ座学を行い、続いて、プロの舞台を生 で鑑賞するプログラムを実施した。 その後、複数回に渡って活動の案内チラシを配布し、活動②や③の参加者募 集をおこなった。	
			将来中学生となる児童に向けたイベント @大津市立中央小学校(打出中学校の学区内の小学校) 学年ごとに芸能を分けて体験・鑑賞した。4年生はコント、5年生は落語、6年生 は三味線音楽(常磐津)に触れてもらった。まずは、教室で大津の歴史や芸能 について学ぶ座学を行い、続いて、体育館でプロの舞台を生で鑑賞し、体験 ワークショップを行った。 その後、複数回に渡ってチラシを配布し、活動②や③の参加者募集をおこなっ た。	
		時期:通年 行政や地域を巻き込んだ 宣伝活動の実施	(連携団体一覧) 滋賀県、滋賀県教育委員会 大津市、大津市教育委員会 大津市内の図書館や博物館 学区内の文化施設 学区内の支所や自治会 学区内の文化団体	
		プレスリリースを活用し、全国紙や地方 紙、テレビ、ラジオに対して宣伝協力を 依頼した。	(掲載メディア一覧) 読売新聞、中日新聞、京都新聞 びわ湖経済新聞、FM大津 NHK大津放送局	
	活動② プロによる稽古と 発表会の実施	時期:7月-9月 地域の施設で 対面・オンライン稽古会を実施	初回稽古 (対面で実施)	参加者とプロが対面で面談し、 参加の理由や学びたいことなどをヒア リング。発表会の内容や稽古の進め 方などを、丁寧に決めていった。
			2回目以降の稽古 (オンラインで実施)	オンラインで東京にいるプロと大津の 参加者をつなぎ、発表会で行う演目の 稽古を実施した。 大津にいるスタッフが参加者の窓口と なり、PCやネットの操作を行い、プロと の稽古をサポートした。
			リハーサル (オンラインで実施)	発表会会場への下見と、本番を想定 したリハーサルを実施した。 下見の引率は大津にいるスタッフが行 い、リハーサルは稽古同様、オンライ ンで東京にいるプロと大津の参加者をつ なぎ行った。
	活動③ 観劇や取材を通じた 芸能研究の実施	時期:9月 地域の施設で、 発表会&鑑賞会の開催	夏休みの稽古の成果を、保護者や同級生、地域の方々見てもらう機会を作っ た。 指導したプロにも舞台に立ってもらい、鑑賞の機会や新たな参加者募集の機会 を併せて提供した。	
		時期:10月-12月 参加者自らがテーマを設定し、 大津市近郊で開催される公演や大 津にまつわる芸能等を鑑賞研究	参加者には、一度自らが実演したことで得た“気づき”に関連する芸能の鑑賞 研究を促した。コロナの影響で鑑賞できない場合は、公演の出演者に許可を取 り、公演の様子を映像で共有し、研究の機会を確保した。	
	活動④ 鑑賞の機会の提供と 参加者募集	時期:2月 大津市内で親子鑑賞会&ワーク ショップを実施し、保護者の理解を得 る ※オミクロン株による第6波のため 中止	活動②③の参加者が予定よりも少なかったため、原因を探ったところ、保護者 への理解が不十分だということがわかった。 そこで、今後中学生になる小学生3年~6年生の子供たち・保護者に向けて、親 子で参加できる学校公演を小学校と連携して企画した。 ※オミクロン株による第6波のため中止	

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

課題区分	目標区分	目標内容	成果内容	成果補足
課題① 子供たちの潜在的ニーズの掘り起こし	目標①-1 生の舞台の鑑賞機会の提供	大津市内で3回以上、計300名以上の子供たちに、大津にゆかりのある芸能[落語、三味線音楽(常磐津)、芝居(コント)]のプロの公演を生で鑑賞、体験できる機会を作る。	大津市内の小中学校で計4回、400名以上の子供たちに、プロの公演を生で鑑賞、体験できる機会を作った。 →目標達成	公演後のアンケートでは、 ①ほとんどの児童生徒は、今回初めて生で舞台を見た ②半数以上の生徒がもう一度見たい ③10人以上の生徒が、部活動に参加してみたいとそれぞれ回答した。 今回の取り組みによって、子供たちの潜在的ニーズの掘り起こすことができた。
	目標①-2 稽古の機会の提供	落語3名、三味線音楽(常磐津)6名2組、芝居(コント)6名3組計15名程度を集める。 発表会に向けた個別指導を月1回以上行い、プロによる5時間程度の稽古の機会を作る。	落語1名、芝居(コント)2名1組計3名を集めることができた。 ※三味線音楽(常磐津)は、今回応募がなかった。 →目標未達:保護者の理解が課題 夏休みを活用しながら、月2回、プロの稽古を対面とオンラインの2種類を組み合わせて、5時間稽古を実施した。 →目標達成	参加者数が目標に達しなかった原因として、活動参加に対する保護者の理解が不十分だった点が挙げられた。 ただし、参加者へのアンケートでは、よかったこととして全ての生徒が、 ・プロから教えてもらったこと、 ・プロの教え方が分かりやすかったことと回答した。 対面とオンラインを併用した形に対しても、特に抵抗感はなく、全ての生徒が今回の形式で良いと回答していた。 プロの技術とICTを活用することで、稽古の機会の提供は、達成できた。 今後は、児童生徒だけではなく、保護者へのアピールも行い、参加者を増やしていきたいと考えている。
課題② 保護者への負担軽減	目標②-1 参加費の負担軽減	スポーツ安全保険年間800円+衣装代や観劇費用、交通費の実費負担等、必要最低限の出費に抑える。	スポーツ安全保険年間800円+衣装代や観劇費用の実費負担のみにしたことで、必要最低限の出費に抑えることができた。 →目標達成	保護者へのアンケートでは、全ての保護者が、参加費は適正であると回答した。 また、地域の施設を利用したので、交通費の負担を0にすることができた。
	目標②-2 拘束時間の負担軽減	子供たちが徒歩で通える稽古場の確保や遠隔稽古等、子供たちで完結する効率的な稽古を実施し、保護者の負担を減らす。	子供たちだけで通える稽古場が確保と、対面とオンラインの2種類を組み合わせたことで保護者に負担がない効率的な稽古を実施することができた。 →目標達成	保護者へのアンケートでは、全ての保護者が、 ・プロの指導を受けられるのは良かった ・送迎の必要がなく便利 と回答した。 充実した内容で、かつ、保護者に負担がない活動を行うことができた。
課題③ 学校側の負担軽減	目標③ 学校側との密な連携を通じた教員の負担軽減	コロナの感染状況に応じ、密に連携をとりながら実施方法を検討し、学校現場の負担を軽減する。	事前の打ち合わせを丁寧に行ったことで、コロナ禍での実施による学校側の負担感や不安感を払拭できた。また、芸能に関して専門知識がある地域団体が関わることに、非常に好意的であった。 →目標達成	学校の習慣として既に行われていること(資料の配布、生徒へのアナウンス、体温チェック等)に関しては、負担感なくお願いできた。 学校側ができること、できないことを事前に把握したことで、教員の負担軽減に寄与できた。
課題④ 行政や自治会等との地域連携	目標④ 行政や地域を巻き込んだ宣伝活動の実施	発表会は、保護者の方や同級生だけでなく、地域の方々も観客として参加してもらえるように働きかける。 その際、行政、自治会や地域の団体と連携し、宣伝や集客を行うことで、地域での認知度を高める。	9月に実施した発表会には、緊急事態宣言下にもかかわらず、20名以上の来場があり、保護者や学校関係者だけではなく、10名以上地域の方々に参加いただいた。 →目標達成 行政や自治会、地域の団体や新聞各社の協力を得ることができ、認知度を高めることができた。 →目標達成	行政の記者クラブを活用することで効率的なプレスリリースを行えたことや、学区内の支所を利用して自治会に協力を依頼できたことがよかった。 また、NHKの地域ドキュメンタリーに取り上げられ、当団体の活動の認知度は高まった。

「大津芸能倶楽部」の創設と持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うため、以下の4つの課題の解決を目指した。

①子供たちの潜在的ニーズの掘り起こし、②保護者への負担軽減、③学校側の負担軽減、④行政や自治会等との地域連携

関係各所(学校、行政、地域団体等)と丁寧に連携を取ることで、上記のようにほとんどの目標を達成することができた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

項目	内容	効果	実際の様子
体験する芸能と地域の歴史の関係を児童生徒に紹介	地域の歴史と芸能との関連を、資料を交えて、説明した。 また、地域に点在する史跡を紹介した。	単に芸能を学ぶのではなく、自分の住んでいる地域とのゆかりを理解することで、親近感が湧き、モチベーションにつながった。 実際、活動を通じて、自ら図書館へ出向き地域の文化に関する資料を借りた児童生徒が複数いた。	
プロと児童生徒との関係づくり	プロとの参加者の信頼関係を早く作るために、個別にじっくり話せる時間を作った。 参加者が、疑問に思ったことを遠慮なくプロに尋ねられるよう、適宜、スタッフが間に入りながら、雰囲気づくりを行った。	初回でプロと児童生徒の間に信頼関係が生まれたおかげで、2回目以降、オンラインでの稽古も、スムーズに進めることができた。 また、プロにとっても、児童生徒にとっても、モチベーションが上がり、本番の舞台で良い発表を行うことができた。	
コロナ対策の徹底	講師のPCR検査や体温チェック、マスクやアルコール消毒、適度な換気など、コロナ対策を徹底した。 また、密なコミュニケーションが必要な稽古では、パーティションの利用やオンラインの活用を行った。	参加者とその保護者が安心して活動に取り組む環境を作ることができた。 結果、参加者は、余計な心配をせず、活動に集中できた。	

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

項目	内容	効果	実際の様子
学校・教員との信頼関係の構築	事業の趣旨としても、コロナ禍の現状を考えると、学校・教員にとって負担にならないことを第一優先に事業を進めた。 そのために、学校長、教頭、学年主任など、さまざまな方々と何度も話し、感染状況に応じて実施内容を都度修正していった。	感染状況が悪化していき、中止も選択肢にはあったが、柔軟な対応をすることにより、学校での事業を行うことができた。 また、活動の参加者を募集する際、学校側も宣伝に協力的で、活動の相談にも乗ってくれるようになった。	中学校での公演の様子(教員と連携し、コロナ対策を万全に実施することができた様子) 
応援してもらうための情報発信の徹底	今年度設立した団体のため、まずは地域の人々に知ってもらう必要があると考え、都度プレスリリースを行い、HP上で活動内容を発信した。 また、行政や自治会が設置している掲示板に都度ポスターを掲載してもらうことで、活動を身近に感じてもらうよう心がけた。	複数の新聞社に、活動ごとに記事を掲載いただいたおかげで、団体や活動の存在を知ってもらうことができた。 NHKの地域ドキュメンタリーの題材になったため、認知度が向上した。 また、行政や自治会にも団体の存在は浸透し、今後に向けた協力体制を構築することができた。	読売新聞に掲載された活動の紹介記事 / NHKの地域ドキュメンタリーの取材の様子 
活動継続のための業務効率化	効率的に活動を行えるように、アナログとデジタルをうまく組み合わせて活動を実施するように心がけた。 コロナ対策の観点からも、プロと児童生徒が直接対面する機会を減らし、代替策としてオンラインでの稽古を実施した。 プロが全てを指導するのではなく、スタッフができることはスタッフが代行し、また、教員が負担なくできることはお願いする、といった体制を作った。	効率的な活動が実施できたため、充実した活動が行えた。 対面稽古とオンライン稽古を組み合わせることによって、交通費が削減できた。 プロ、スタッフ、教員、それぞれの力をうまく組み合わせることができたため、負担を分散でき、誰かが不満を溜めることなく、活動することができた。	オンラインを使った指導の様子(実演の後、プロから修正点を聞いている様子) 

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

	現状	課題
地域、自治体、保護者の理解	団体の存在や活動内容は理解されている。 参加者の募集に関しては、宣伝の協力を得られている状況。	活動の意義についての理解は不足している。そのため、地域の方や自治体から、積極的な支援を受けられる段階には達していない。 特に、保護者の理解は足りておらず、そのため、参加者が想定より少なくなった原因であると考えている。
活動内容	対面とオンラインを併用し、参加者がプロから個別に指導を受け、発表に臨むことができている。	参加者の特性によっては、今年度のような稽古の方法が合わない可能性もある。 参加者が増えていくと、指導に関わるプロの数が不足する可能性がある。
資金調達、経費	運営費は文化庁のモデル事業による委託費で賄っている。 参加者ごとにかかる経費に関しては、実費負担をお願いしている。	行政や学校によると、本事業に新たな予算の割くことは、今のところ難しいとの回答を得た。 参加者の保護者によると、塾や他の習い事の兼ね合いから、仮に月1万円の負担でも厳しいとの声をもらった。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

	運営方針	解決策	運営計画
地域、自治体、保護者の理解	地域の青少年育成にとって必要であり、教員の働き方改革に良い影響を与える団体であると認識してもらうことを目標に、活動の継続と情報発信に努める。	活動を継続し、実績を積み重ねることで、活動の意義やメリットを理解してもらう必要がある。 そのためには、保護者を巻き込んだ活動の実施や、徹底した情報発信を行い、参加者を増やしていきたい。	2月に中止となった親子で楽しめる芸能鑑賞会・ワークショップの代替となるような企画の準備を進めたい。 また、今年度同様の内容を実施し、実績を積み重ねたい。
活動内容	参加者がプロの指導を手軽に受けられ、表現力や主体性を身につけられる活動を、継続して実施する。	参加者にあった指導方法を、引き続き検証を行い、最適解を見つける。 参加者数に応じてプロの不足を補えるよう、現在関わってくださっているプロと相談しながら、指導者を確保する。	今年度の方法は特に問題がなかったと考えているので、まずはこの方法で、一人でも多くの参加者に稽古を行なっていきたい。 その上で、参加者の習熟度や個性に合ったよりよい稽古の形を、プロとともに見つけていきたい。
資金調達、経費	行政、民間企業、地域の個人など、対象を限定せず、さまざまな方法で資金を調達する。 業務効率化によって経費を削減し、家庭環境によらず希望者が参加できる運営を行う。	実績を積み重ね行政や学校側の理解度を高めることで、運営費の一部の予算を確保してもらうよう働きかける。 地域の理解者を増やし、民間企業や地域住民に協賛金を募り、運営費の一部を確保する。 業務効率化を進め、経費を削減する。	利用可能な助成金制度を活用し、運営費を確保する。 実績を作り情報発信することによって、地域の理解者を増やす。 デジタル技術を活用し、より一層の業務効率化を進める。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	滋賀県大津市内の小学4年生～中学2年生(要望があれば、応相談で対応) 芸能のジャンル:落語、三味線音楽(常磐津)、芝居(コント) 令和3年度参加者:小学3年生1名(コント)、小学6年生1名(コント)、中学1年生1名(落語) 令和4年度想定:小学生、中学生、計15名程度募集予定
募集方法	①チラシ配布:地域の小中学校や自治会を活用し、チラシを配布 ②ポスター掲示:県庁や市役所、地域の公共施設、また、自治会の掲示板にポスターを掲示 ③プレスリリース:県庁や市役所の記者クラブに対してプレスリリースを配布。結果、読売新聞、中日新聞等の新聞に掲載される。 ④募集イベントの実施:地域の小学校と中学校で、出張授業や鑑賞会、ワークショップを実施
指導者	①メインの指導者:全国的に活躍する芸能実演家5名 ②補助指導者:芸能制作経験者1名 ※適宜必要なスタッフを追加していく予定
移手段	徒歩、自転車
活動費用	稽古場:2,000-5,000円/回(近くの古民家を活用、参加人数に応じて変動) 発表会場費:35,000円/回(市の施設を活用) 講師謝礼:5,000-1万円/時間(事前準備の有無や参加人数に応じて変動) 宣伝費、旅費交通費、その他:50-60万円/年
スケジュール	5月-6月:芸能鑑賞会・ワークショップへの参加、入部 7月-9月:発表会に向けた稽古を実施(オンライン、オフラインを併用) 9月:発表会の実施 10月-12月:プロの公演鑑賞研究 1月-2月:親子芸能鑑賞会の実施(オミクロン株によるコロナ第6波の影響で中止)
保険加入等	スポーツ安全保険:年間800円/人(講師も加入)

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子（写真添付）】

<p>活動① 鑑賞の機会の提供と 参加者募集</p>	<p>時期:5月 大津市内で鑑賞会兼ワークショップを実施し、生の舞台の鑑賞機会を提供</p>	<p>落語 三味線音楽(常磐津) コント(芝居・演劇)</p> 
<p>活動② プロによる稽古と 発表会の実施</p>	<p>時期:7月-9月 地域の施設で 対面orオンライン稽古会を 実施</p> <p>時期:9月 地域の施設で、 発表会&鑑賞会の開催</p>	<p>コントの稽古風景(オンライン) / 落語の稽古風景(オンライン)</p>  <p>コントの発表 落語の発表 参加者と講師との写真</p>  <p>【取扱注意】大津芸能倶楽部・夏の芸能発表会 2021 映像資料</p> <p>2021/09/11(土) スカイプラザ浜大津 大津芸能倶楽部プロジェクト 夏の芸能発表会 2021</p> <p>限定公開 URL https://youtu.be/WITSCzQ8Xbk</p> <p>※関係者のみの視聴をお願いいたします。</p> <p>QRコード</p> 
<p>活動③ 観劇や取材を通じた 芸能研究の実施</p>	<p>時期:10月-12月 参加者自らがテーマを設定し、大津市近郊で開催される公演や大津にまつわる芸能等を鑑賞研究</p>	<p>落語公演の鑑賞 常磐津公演の鑑賞 落語の出囃子、寄席の音楽の鑑賞</p> 

上記の写真に加え、学校の出張授業で使用したパンフレット、各活動の宣伝チラシを各1部ずつ添付いたします。
また、NHKが取材した地域ドキュメンタリーの映像のDVDを1枚添付いたします。